

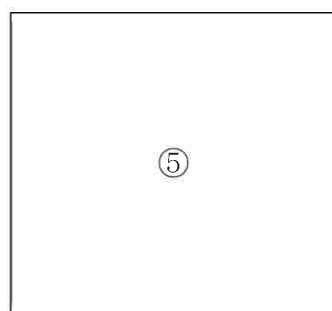
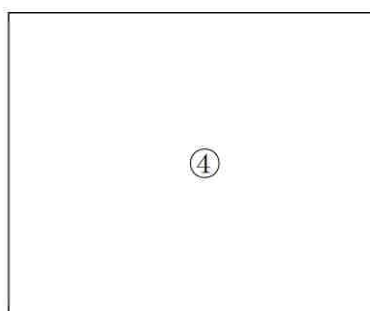
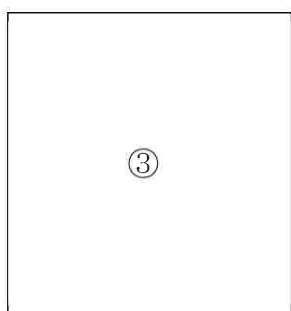
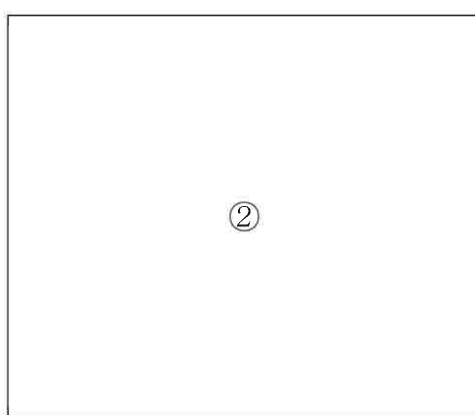
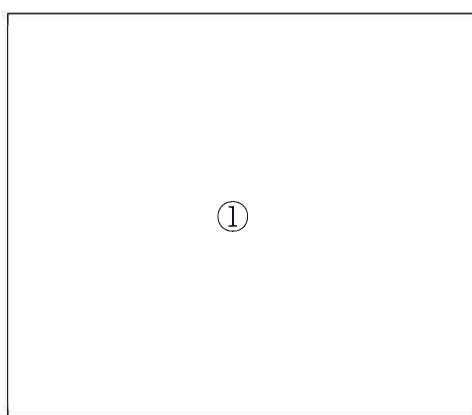
— 「食と緑が支える豊かな暮らし」の実現に向けて —

食と緑の知多地域レポート 2025



2025年9月
知多農林水産事務所





表紙写真の説明

- ① 豊浜漁協の津波避難施設（水産課）
- ② アスファルト舗装を切削し、古い舗装を除去します（知多市、建設課）
- ③ 半田市で栽培されるデンドロビウム（農業改良普及課）
- ④ 東海市で生産される原木しいたけ（林務課）
- ⑤ 知多農林水産事務所で実施したフラワーウォーク（農政課）

持続可能な開発目標 SDGs(エスディージーズ)

SDGs とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。

この目標は 17 のゴールで構成されており、本レポートでは、「Ⅱ 知多地域における重点推進事項の取組状況」において該当する項目のアイコンを表示しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



[凡例]

「Ⅱ 知多地域における重点推進事項の取組状況」の「取組目標」枠内に記した

農などの記号は、各目標に取り組む担当課名を略して表示したものです。

農・・・農政課

普・・・農業改良普及課

水・・・水産課

建・・・建設課

林・・・林務課

目 次

I	食と緑の知多地域レポート作成の趣旨	1
II	知多地域における重点推進事項の取組状況	
1	明日の農業を担う人材確保プロジェクト	2
	【取組目標】①新規就農者の確保	
2	儲かる農業づくりプロジェクト	3
	【取組目標】②「産地戦略」ごとの収益性向上のための施設整備・機械導入	
3	マーケット・フル活用プロジェクト	4
	【取組目標】③産地直売施設、観光農園など消費者へ直接販売する新たな取組	
	④6次産業化等の推進による付加価値商品の開発	
4	豊かな海の再生プロジェクト	6
	【取組目標】⑤有用水産種苗の放流	
	⑥新規漁業就業者の確保	
5	持続的発展のための農水産業の基盤整備プロジェクト	8
	【取組目標】⑦農道の整備・保全延長	
	⑧水産共同利用施設の整備	
6	県土の安全・安心プロジェクト	10
	【取組目標】⑨ため池の防災・減災対策により被害が未然に防止される面積	
	⑩山地災害に対する防災機能の向上が図られる面積の確保	
7	食と緑を知ってもらおうプロジェクト	12
	【取組目標】⑪農林水産業の理解を深める取組に参加した人数	
	⑫地域等で取り組む保全活動面積の確保	
III	重点推進事項（取組目標）の実施状況	14
IV	地域の特徴的な取組事例（トピックス）	
1	有機農業実施計画の作成とオーガニックビレッジ宣言	15
2	水稻高温耐性品種「あいちのこころ」の導入支援	16
3	あいちのおさかな学習事業	17
4	多面的機能支払事業 第5地域保全隊（東浦町）による生き物調査	18
5	森林環境教育を通じた山間部と都市部の交流	19

I 食と緑の知多地域レポート作成の趣旨

愛知県は、将来にわたって「安全で良質な食料等の安定的な供給が確保され、かつ、その適切な消費及び利用が行われること」、「森林と農地の有する多面的機能が適切かつ十分に発揮されることにより、安全で良好な生活環境が確保されること」の2つを基本理念とする「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」を平成16年4月に施行し、この条例の基本理念の実現を図るため、平成17年2月に「食と緑の基本計画」を策定・公表しました。

その後、令和2年12月には、第4期計画となる「食と緑の基本計画2025」を策定し、知多農林水産事務所におきましても、知多地域の強みや特色を活かした農林水産業の振興、農村の活性化を図るため、「食と緑の基本計画2025知多地域重点推進プラン」を令和3年3月に策定・公表し、県民や関係団体等との連携により様々な取組を行っています。

本誌「食と緑の知多地域レポート2025」は、「食と緑の基本計画2025知多重点推進プラン」に掲げた7つの重点推進事項を的確に推進するために、12の取組目標に対する令和6年度の取組状況と地域の特徴的な取組事例を取りまとめました。

Ⅱ 知多地域における重点推進事項の取組状況

1 明日の農業を担う人材確保プロジェクト



取組目標① 新規就農者の確保 5年間で130人

農 普

【施策の目的】

知多地域では、高齢化や後継者の不足により農業者は減少傾向にあり、その解決が大きな課題となっています。

一方、多くの人が就農を希望し相談に訪れており、これらの人々が就農し将来の担い手として自立した経営を確立することが重要です。

このため、就農希望者が農産物の生産技術を習得して就農できるように、相談者へきめ細やかな支援を行います。

【取組の内容】

品目、技術習得、農地の確保等の就農相談を実施するとともに、就農計画・制度資金等の計画作成を支援しました。令和6年度は新規就農希望者61人に、延べ204回の相談を行いました。

また、新規就農者育成総合対策等(就農準備資金、経営開始資金、初期投資促進事業)を活用して経営基盤を確立させるとともに、各市町の就農サポートチームと連携し、新規就農者の定着を支援しました。



青年等就農計画作成支援の様子



新規就農者への個別巡回

【取組の実績・成果】

新規就農者数は、新規参入17人、農家子弟のUターン1人、新規学卒1人、雇用就農8人、合計27人となりました。

年 度	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	2025(令和7)
目 標(人)	26 (累計)	26 52	26 78	26 104	26 130	130 (A)
実 績(人)	26 (累計) (B)	26 52	29 81	27 108	— —	—
進捗率(%) (B)/(A)	20.0	40.0	62.3	83.1	—	—

【今後の方向】

今後も引き続き、関係機関と連携して新規就農者の確保・育成に努めます。

2 儲かる農業づくりプロジェクト



取組目標② 「産地戦略」ごとの収益性向上のための施設整備・機械導入
5年間で16件

農 普

【施策の目的】

農業者の経営状況が一層厳しくなる中、将来を見据えた農畜産物の生産性の向上が必要です。そこで、主要産地・品目ごとの課題解決に向けた「産地戦略」の作成や、収益性向上のための施設整備・機械導入を支援します。

【取組の内容】

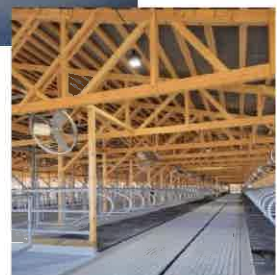
新たな産地戦略の策定を支援するとともに、これまでに産地戦略を策定した産地において、収益性向上のための施設整備等を支援しました。



パプリカ栽培ハウス
(常滑市)



搾乳牛舎
(半田市)



【取組の実績・成果】

2つの産地戦略（下記①～②）で施設等が整備され、収益性向上につながる生産基盤が確保されました。

① パプリカ：パプリカ栽培ハウス等（常滑市）、②酪農：搾乳牛舎等（半田市）

年度	2021（令和3）	2022（令和4）	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）	2025（令和7）
目標（件）	2 (累計)	4 6	6 12	2 14	2 16	16（A）
実績（件）	2 (累計) (B)	4 6	5 11	2 13	— —	—
進捗率（%） (B)/(A)	12.5	37.5	68.8	81.3	—	—

【今後の方向】

主要な産地、品目を対象に、市町、JA等と連携し、新たな計画を作成するとともに、産地戦略の収益性向上等の目標達成に向けて、施設整備・機械導入の支援を継続していきます。

3 マーケット・フル活用プロジェクト



取組目標③ 産地直売施設、観光農園など消費者へ直接販売する新たな取組
5年間で13件

農 普

【施策の目的】

知多地域は、地理的・社会的条件としてインバウンドを含む交流人口を多く見込める地域です。これを積極的に活かした経営を推進するため、農業者の直接販売の取組等を支援し、販路の多様化を図ります。

【取組の内容】

六次産業化・地産地消法に基づく、「総合化事業計画」の策定及び具体化を支援しました。

補助事業を活用した産地直売施設の整備を支援しました。



養豚農家直営の豚肉直売所（常滑市）

【取組の実績・成果】

「総合化事業計画」の具体化の支援により、丹精込めて育てられた独自ブランドの豚肉の直売所が開設されました。

豚の内臓を丸ごと入手して、店頭に新鮮なホルモンを種類豊富に並べるなど、養豚農家直営の強みを生かした商品が展開されています。

年 度	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	2025(令和7)
目 標(件)	3 (累計)	4 7	2 9	2 11	2 13	13 (A)
実 績(件)	3 (累計) (B)	4 7	4 11	1 12	— —	—
進捗率(%) (B)/(A)	23.1	53.8	84.6	92.3	—	—

【今後の方向】

引き続き、「総合化事業計画」の策定及び具体化及び補助事業による施設整備で、農業者の直接販売を支援します。

取組目標④ 6次産業化等の推進による付加価値商品の開発 5年間で40品 農 普

【施策の目的】

6次産業化とは、農林漁業者が主体となって農林漁村に豊富に存在する地域資源を有効に活用し、農林漁業（一次産業）、製造業（二次産業）、小売業（三次産業）との総合的かつ一体的な推進を図り、新たな付加価値を生み出す取組（1次×2次×3次＝6次産業化）です。こうした6次産業化等の取組を支援して、付加価値商品の開発を行うとともに、販路の多様化*を図ります。

※直売所での販売やネット販売などの販売チャネルの種類を増やすこと

【取組の内容】

総合化事業*計画の策定及び具体化により、知多地域に存在する地域資源を有効に活用した加工食品の開発を支援しました。

また、農業者の品種登録に向けた手続きの助言支援を行いました。

※農林漁業者が農林水産物の生産及び加工又は販売を一体的に行う事業活動

【取組の実績・成果】

加工食品…自家生産の豚肉を利用した冷凍餃子 始め9品



冷凍餃子（常滑市）



地元農産物のお弁当（阿久比町）

年 度	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	2025(令和7)
目 標(品)	8 (累計)	8 16	8 24	8 32	8 40	40 (A)
実 績(品)	11 (累計) (B)	8 19	5 24	9 33	— —	—
進捗率(%) (B)/(A)	27.5	47.5	60.0	82.5	—	—

【今後の方向】

市町、JA、民間事業者と連携し、事業等を有効に活用しながら、付加価値商品の開発や販路の多様化を支援していきます。

4 豊かな海の再生プロジェクト



取組目標⑤ 有用水産種苗の放流 毎年 16,160 千尾（個）



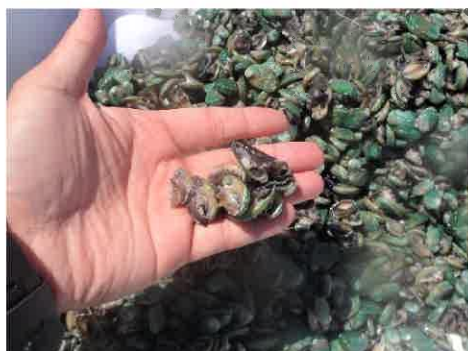
【施策の目的】

知多地域は、県内でも有数の漁業地域ですが、海面漁獲量は年変動が激しい傾向にあります。有用な水産資源の持続的利用を可能とするため、資源の維持・増大を図ります。

【取組の内容】

漁業者等が実施する種苗※放流について、県では放流スケジュールなどの調整や放流適地・放流方法などに関する技術的な支援をして、愛知県栽培漁業センターで生産された有用水産種苗を放流しました。

※人工生産又は天然採捕した水産動植物の稚魚・稚貝等の総称



アワビの種苗（南知多町）



クルマエビの種苗放流（篠島漁協）

【取組の実績・成果】

クルマエビ、ヨシエビ、ガザミ、トラフグ、ナマコ、アワビの6魚種の種苗について、総計 16,163 千尾(個)の種苗を放流しました。

年 度	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	平均
目 標 (千尾(個)) (A)	14,760	14,760	16,160	16,160	16,160	15,600
実 績 (千尾(個)) (B)	14,698	16,165	16,163	16,163	—	15,797
達成率(%) (B)/(A)	99.6	109.5	100.0	100.0	—	—

【今後の方向】

引き続き、有用な水産資源の維持・増大を推進します。

取組目標⑥ 新規漁業就業者の確保 5年間で65人

水

【施策の目的】

知多地域では、高齢化や後継者不足により、漁業者数は減少傾向にあり、水産業における新規就業者対策は重要な課題となっています。

【取組の内容】

新規漁業就業者の技術・知識の習得や漁家経営の安定化を図るため、チョウザメ養殖を行っている豊根フィッシュファーマーズ（北設楽郡豊根村）の視察やワカメ・ノリ等の養殖技術指導を行いました。

漁業就業希望者に対して、水産試験場を窓口とする漁業就業者確保育成センターを通じて情報提供し、水産関係団体への仲介を行いました。また、漁業経営の開始に必要な漁船や漁具などの資金の確保に対し相談に応じ、制度資金の活用促進等を行いました。



チョウザメ養殖視察(知多地区漁協青年部)



ワカメ養殖技術の指導(南知多町)

【取組の実績・成果】

新卒6人（うち漁家子弟6人）、他業種からの転職7人（うち漁家子弟3人）、合計13人の新規漁業就業者を確保しました。

年 度	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	2025(令和7)
目 標(人)	13 (累計)	13 26	13 39	13 52	13 65	65 (A)
実 績(人)	8 (累計) (B)	4 12	9 21	13 34	— —	—
進捗率(%) (B)/(A)	12.3	18.5	32.3	52.3	—	—

【今後の方向】

新規漁業就業を希望する一般や水産高校生を対象に漁業体験研修を実施し、新規就業者の確保に努めます。

5 持続的発展のための農水産業の基盤整備プロジェクト



取組目標⑦ 農道の整備・保全延長 5年間で 15.7 km



【施策の目的】

近年の都市化の進展に伴い、農道には農業用以外の一般車両の通行、特に大型車両の通行量が増加したため、舗装の傷みが著しくなっており、維持管理費の増嵩や農作物の荷傷みによる品質の低下が見られるようになってきました。このため老朽化した舗装の再整備をすることにより、維持管理費の軽減を図るとともに出荷施設への輸送、大都市圏への出荷に係る走行経費の節減や農作物の品質の向上を図ります。

【取組の内容】

経営体育成基盤整備事業（基幹農道整備保全対策、一般農道整備保全対策）で、農道の管理者である市町と連携を図り優先順位の高い箇所から順次舗装の再整備を行いました。



南知多 1 期地区（南知多町）



三崎西部地区（常滑市）

【取組の実績・成果】

3 地区を実施し、2.9 km の舗装整備を行いました。

年 度	2021(令和 3)	2022(令和 4)	2023(令和 5)	2024(令和 6)	2025(令和 7)	2025(令和 7)
目 標(km)	2.3 (累計)	3.6 5.9	3.6 9.5	3.6 13.1	2.6 15.7	15.7 (A)
実 績(km)	4.6 (累計) (B)	5.1 9.7	4.5 14.2	2.9 17.1	— —	—
進捗率(%) (B)/(A)	29.3	61.8	90.4	108.9	—	—

【今後の方向】

予算確保に努め、老朽化した舗装整備の積極的な推進に努めます。

取組目標⑧ 水産共同利用施設の整備 5年間で27施設

水

【施策の目的】

知多地域の水産業においては漁業協同組合が所有する共同利用施設の老朽化が進んでおり、漁獲物の供給に不安を抱えています。

これらの施設の老朽化は、施設の維持管理コストの増大につながり、鮮度を維持した良質で安全な水産物の供給に重大な支障を及ぼしており、計画的に整備・保全、機能強化を推進します。

【取組の内容】

漁業・漁村の防災対策の推進、水産業共同利用施設について、地先漁場生産力の強化、水産物の衛生管理強化、漁業就労環境改善に資する取組を支援しました。



受変電設備（常滑市）



照明器具（美浜町）

【取組の実績・成果】

受変電設備、照明器具、津波避難施設など5施設の整備・保全、機能強化を図りました。

年 度	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	2025(令和7)
目 標 (施設)	6 (累計)	6 12	5 17	5 22	5 27	27 (A)
実 績 (施設)	10 (累計) (B)	11 21	5 26	5 31	— —	—
進捗率(%) (B)/(A)	37.0	78.0	96.3	114.8	—	—

【今後の方向】

漁業生産力の強化を図るため、管内漁業協同組合及び市町と連携して現場のニーズをいち早く把握し、事業の効果が最大限発揮されるように取り組んでいきます。

6 県土の安全・安心プロジェクト



取組目標⑨ ため池の防災・減災対策により被害が未然に防止される面積
5年間で 333ha

建

【施策の目的】

ため池は、地域農業の重要な役割を果たしていますが、地震時における堤体の安定性不足や豪雨時の洪水吐^{※1}の排水能力不足により、農地・農作物・農業用施設のみならず公共施設・家屋等にも多大な被害を及ぼす恐れがあります。

知多地域にも、ため池が多く存在し、特に防災重点農業用ため池^{※2}を中心に耐震性能調査を行い、耐震性不足等が判明したため池には、耐震対策、豪雨対策を行い地域の安全、安心を確保します。

※1 ため池への洪水の流入に対し、堤体の安全を確保するために設けられた放流設備

※2 決壊した場合の浸水区域内に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与える恐れのあるため池

【取組の内容】

耐震性不足が判明したため池のうち耐震対策の緊急性の高いものから順次、防災ダム事業、緊急農地防災事業により地盤改良や押え盛土等の堤体補強工事を行いました。また、洪水吐の排水能力が不足しているため池については、耐震工事に併せて洪水吐の改修を行いました。



西池田池（南知多町）



種廻間池（知多市）

【取組の実績・成果】

西池田池を始め 3 池（105.1ha）の耐震対策工事等を完了させました。

年 度	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	2025(令和7)
目 標(ha)	88 (累計)	87 175	109 284	0 284	49 333	333 (A)
実 績(ha)	161.5 (累計)(B)	28.6 190.1	112.6 302.7	105.1 407.8	— —	—
進捗率(%) (B)/(A)	48.5	57.1	90.9	122.5	—	—

【今後の方向】

予算確保に努め、耐震対策、豪雨対策の積極的な推進に努めます。

取組目標⑩ 山地災害に対する防災機能の向上が図られる面積の確保
5年間で 70ha



【施策の目的】

知多地域は、半島海岸部に沿った狭い平地に民家が建ち並び、背後に急峻な山腹斜面があり、山崩れなどの山地災害に対する防災機能の向上を図る必要があります。

【取組の内容】

管内5市町(常滑市、東海市、知多市、阿久比町、南知多町)の山林10か所で治山事業を実施しました。

南知多町の日間賀島においては、山腹斜面の崩壊を未然に防ぐことを目的として、吹付工(特殊モルタルC)※を施工し、山地災害に対する安全性の向上に努めました。

※風化・亀裂の発達した脆弱な露岩斜面に特殊配合のモルタルを吹付け法面保護を行う工法



南知多町日間賀島 (施工前)

(施工後)

【取組の実績・成果】

治山事業により 14.6ha の防災機能の向上を図りました。

年 度	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	2025(令和7)
目 標(ha)	14 (累計)	14 28	14 42	14 56	14 70	70 (A)
実 績(ha)	20.7 (累計) (B)	18.1 38.8	16.6 55.4	14.6 70.0	— —	—
進捗率(%) (B)/(A)	29.5	55.4	79.1	100.0	—	—

【今後の方向】

予算の確保に努め、引き続き山地災害に対する安全性の向上に努めます。

7 食と緑を知ってもらおうプロジェクト



取組目標⑪ 農林水産業の理解を深める取組に参加した人数 毎年 1,020 人

農 普 水 建 林

【施策の目的】

県民が本県農林水産業の魅力や重要性を理解し、健全な食生活を実践するとともに、県産品購入や農林漁業体験を楽しむ「農のある暮らし」が活発になる社会をめざします。

【取組の内容】

農林水産業のPRや農林漁業体験の機会の確保、食育の推進などに継続して取り組み、県民の農林水産業の理解を深めるイベントなどを行いました。



食育推進ボランティア研修交流会



あいちのおさかな学習事業



農業農村整備事業パネル展示



親子木工教室

【取組の実績・成果】

【農政課】 40人（食育推進ボランティア研修交流会）

【水産課】 316人（あいちのおさかな学習事業、魚食普及料理教室）

【建設課】 343人（イベントでの農業農村整備事業パネル展示説明、アンケート）

【林務課】 600人（森林・林業なるほど出前講座、親子木工教室 等）

年 度	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	平均
目標(人) (A)	1,020	1,020	1,020	1,020	1,020	1,020
実績(人) (B)	1,158	1,269	2,125	1,299	—	1,517
達成率(%) (B)/(A)	113.5	124.4	208.3	127.4	—	—

【今後の方向】

各種行事でのPRや機会の確保、食育の推進で県民の理解促進を図っていきます。

【施策の目的】

農山漁村の維持、農林水産業の持続的発展のためには、農山漁村等が有する多面的機能が発揮されるよう農地や里山林の保全に努めてもらう必要があります。

【取組の内容】

農業者や地域住民で構成される活動組織が行う農用地、水路、農道など施設の点検や農地法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持などを支援しました。

地域住民と行政が協力して保全・活用するための森林保全活動が継続的に行われるように支援しました。



大興寺みどり保全管理会による草刈活動（知多市）



森林保全活動（常滑市）

【取組の実績・成果】

農業者や地域住民で構成される活動組織により農地面積 3,200ha を保全しました。また、常滑市内を始めとした 10 ha の里山林で、地域住民で組織された団体による森林保全活動が行われ、地域の良好な生活環境を保全するモデルとなりました。

年 度	2021(令和3)	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	平均
目標(ha) (A)	3,210	3,210	3,210	3,210	3,210	3,210
実績(ha) (B)	3,210	3,210	3,210	3,210	—	3,210
達成率(%) (B)/(A)	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—

【今後の方向】

引き続き、将来にわたり持続可能な農地、農村環境を守り、里山の森林保全活動を推進していきます。

Ⅲ 重点推進事項（取組目標）の実施状況

	重点推進事項	取組目標	目標値 (2025年度)	実績値				
				2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)
(1)	明日の農業を担う人材確保プロジェクト	① 新規就農者の確保	5年間で130人	26人 (累計)	26人 (52人)	29人 (81人)	27人 (108人)	
(2)	儲かる農業づくりプロジェクト	② 「産地戦略」ごとの収益性向上のため の施設整備・機械導入	5年間で16件	2件 (累計)	4件 (6件)	5件 (11件)	2件 (13件)	
(3)	マーケット・フル活用プロジェクト	③ 産地直売施設、観光農園など消費者 へ直接販売する新たな取組	5年間で13件	3件 (累計)	4件 (7件)	4件 (11件)	1件 (12件)	
		④ 6次産業化等の推進による付加価値 商品の開発	5年間で40品	11品 (累計)	8品 (19品)	5品 (24品)	9品 (33品)	
(4)	豊かな海の再生プロジェクト	⑤ 有用水産種苗の放流	毎年16,160千尾 (個)	14,698千尾	16,165千尾	16,163千尾	16,163千尾	
(5)	持続的発展のための農 水産業の基盤整備プロ ジェクト	⑥ 新規漁業就業者の確保	5年間で65人	8人 (累計)	4人 (12人)	9人 (21人)	13人 (34人)	
		⑦ 農道の整備・保全延長	5年間で15.7km	4.6km (累計)	5.1km (9.7km)	4.5km (14.2km)	2.9km (17.1km)	
(6)	県土の安全・安心プロ ジェクト	⑧ 水産共同利用施設の整備	5年間で27施設	10施設 (累計)	11施設 (21施設)	5施設 (26施設)	5施設 (31施設)	
		⑨ ため池の防災・減災対策により被害 が未然に防止される面積	5年間で333ha	161.5ha (累計)	28.6ha (190.1ha)	112.6ha (302.7ha)	105.1ha (407.8ha)	
(7)	食と緑を知ってもらおうプロジェクト	⑩ 山地災害に対する防災機能の向上が 図られる面積の確保	5年間で70ha	20.7ha (累計)	18.1ha (38.8ka)	16.6ha (55.4ha)	14.6ha (70.0ha)	
		⑪ 農林水産業の理解を深める取組に参 加した人数	毎年1,020人	1,158人	1,269人	2,125人	1,299人	
		⑫ 地域等で取り組む保全活動面積の確 保	毎年3,210ha	3,210ha	3,210ha	3,210ha	3,210ha	

Ⅳ 地域の特徴的な取組事例（トピックス）

有機農業実施計画の作成とオーガニックビレッジ*宣言

【農政課】

【取組の趣旨・目的】

知多地域は産地直売や観光農園が盛んに取り組まれているとともに、有機農業も盛んに取り組まれている地域です。

本県では、有機農業を「環境と安全に配慮した農業」の特徴的な取組の一つに位置づけ、「愛知県有機農業推進計画」に基づき推進しています。

【取組の内容・効果】

大府市、南知多町、美浜町及び武豊町では、有機農業を推進しています。令和6年度は有機農業を拡大するため、みどりの食料システム戦略推進交付金等を活用して有機農業実施計画を作成し、学校給食での提供拡大、農作物のブランド化、有機農業の拠点づくり等に取り組んでいます。

知多地域におけるオーガニックビレッジ宣言は、令和4年度に南知多町が、昨年度（令和6年度）には大府市が11月22日に、美浜町と武豊町が令和7年3月8日に行い、有機農業実施計画を策定したことを周知するとともに、有機農業の取組を加速することを誓いました。オーガニックビレッジは令和6年度までに全国で131市町村が取り組んでおり、本県では知多管内の4市町のほかには岡崎市及び東郷町のみが宣言しています。

これらの取組は、地域農業を活性化するとともに、食育推進にも貢献しています。



大府市オーガニックビレッジ宣言式



美浜武豊オーガニックビレッジ宣言式

【今後の予定】

引き続き、市町、農業者等と連携し、事業等を有効に活用しながら、有機農業の拡大のための取組を支援していきます。

* オーガニックビレッジとは、地域ぐるみで有機農業の生産から消費までの一貫した取組を行う地区をいう。

水稻高温耐性品種「あいちのこころ」の導入支援

【農業改良普及課】

【取組の趣旨・目的】

近年、水稻では、夏期の異常高温により高温登熟障害が多発し、玄米が白濁することで外観品質が大きく低下しています。この問題に対応するため、愛知県農業総合試験場は、JAあいち経済連と共同で高温耐性を有する早生品種「あいちのこころ」を育成しました。

令和7年度の「あいちのこころ」一般栽培開始に先立ち、令和6年度には知多地域で30戸の生産者が大規模試験栽培に取り組みました。そこで、農業改良普及課では、「あいちのこころ」普及促進のため、本品種の導入により、どの程度の経営メリットが得られるか調査しました。



写真 玄米の外観

(左:あいちのこころ 右:ゆめまつり)

「あいちのこころ」では、白未熟粒（米粒が白く濁った状態）が少ない。

【取組の内容・効果】

令和6年の夏は、過去に例のないほどの異常高温となりました。早生品種「ゆめまつり」の品質は大きく低下し、ほぼ全量が外観品質3等となった一方で、「あいちのこころ」は1等が6割、2等が4割であり、高温下でも高い品質が維持されていました。この品質の差を金額に換算すると、「ゆめまつり」を「あいちのこころ」に替える事で、10aあたり約9千円の収入増加が見込まれました。

また、「あいちのこころ」の収量と品質は、中生品種の「あいちのかおり SBL」とほぼ同等となりました。「あいちのかおり SBL」は、品質が比較的安定していることから栽培面積が大きい一方で、作付けの集中による作業競合が生じています。両品種の出穂期には約2週間の差があったため、「あいちのかおり SBL」の一部を「あいちのこころ」に置き換えることで、生産者の収入に大きな影響を与えずに、カメムシ防除や収穫作業等の作業競合を緩和でき、かつ台風等の気象災害リスクの分散にも繋がると考えられました。

【今後の予定】

本事例の「あいちのこころ」導入効果について、大規模経営体を中心に広く周知し、本品種の普及推進を行います。

あいちのおさかな学習事業

【水産課】

【取組の趣旨・目的】

「あいちのおさかな学習事業」は、地元漁業者や水産業改良普及指導員を魚食の大切さや漁業のすばらしさ、役割などを伝える「魚食の伝道師」として小学校等に派遣し、あいちの水産物等に関する講義や実習を行うことにより、若い世代に愛知県産水産物や漁業への関心を持ってもらうことを目的としています。

【取組の内容・効果】

令和6年度は、知多管内の4つの小学校で開催し計277名の児童が参加しました。

派遣された「魚食の伝道師」が県内で漁獲される水産物や各漁業を写真や図表で紹介するとともに、ノリ焼き体験や伊勢湾で漁獲された魚介類に直接触れあう体験（タッチプール）、アサリの優れた水質浄化能力試験の講義などを行いました。

児童たちは、焼きたてのノリの風味を味わい、普段触れる機会の少ない魚やカニなどの漁獲物を間近に観察することで、水産物を身近に感じることができました。



愛知の水産業についての講義



ノリ焼き体験



漁獲物のタッチプール



アサリ水質浄化試験

【今後の予定】

引き続き同様の事業を開催し、多くの若い世代に愛知県産水産物や漁業への関心を持ってもらえるよう工夫して取組を行っていきます。

多面的機能支払事業 第5地域保全隊(東浦町)による生き物調査

【建設課】

【取組の趣旨・目的】

農村地域に点在する農業用ため池や用排水路、水田は、さまざまな生き物にとって重要な生息空間です。東浦町の「第5地域保全隊」は多面的機能支払事業の交付金を活用し、休耕田を利用したビオトープ池を作り、管理しています。保全隊は平成21年度よりこの池を利用して地域の子供達と一緒に生き物調査を実施しており、当事務所も毎年このイベントに参加しています。

【取組の内容・効果】

農業と農業用施設は自然環境と深い関わりを持っていることや、そこに棲む生き物の繋がりなど生物多様性を保全することの大切さを子供達が体感できるよう、農業従事者、大人や子供達が一緒にビオトープ池に棲む生き物を調べながら、農業や環境についての理解と関心を深めました。

当事務所では農業農村整備事業を紹介したパネル展示や関連グッズの配布を行いました。



ビオトープ池生き物調査



生き物を子供たちに説明

【今後の予定】

引き続き同様のイベントに参加していくことにより、子供から大人まで幅広く県民に対し農村環境保全の重要性、農業農村整備事業の役割と効果を伝えていきます。

森林環境教育を通じた山間部と都市部の交流

【林務課】

【取組の趣旨・目的】

林務課では、森林や木材についてより一層の親しみを感じてもらい、理解を深めてもらうことを目的として、森林の働きや木材利用の意義を学ぶ「あいちの森林なるほど講座（以下、「講座」という）」を実施しています。

【取組の内容・効果】

東浦町の小学校から「子供達へ実際に林業をする人の生の声を聞かせたい」との要望を受け、都市部と山間部を繋ぐ講座を企画・実施しました。

企画時に、東浦町は新城市と姉妹都市提携をしていることが判明したため、新城市内の林業経営体に講師派遣を依頼し、子供達に楽しみながら森林・林業への理解を深めてもらうことを目的に、5年生 58 人を対象とした体験型（水源かん養実験、学校裏山散策、チェーンソー実演、丸太切り体験）の講座としました。

講座には、東浦町と新城市の担当者や、東浦町内で新城市産木材を用いて家具を製作している企業関係者も招き、都市部と山間部の交流と併せて、県産木材の利用推進・普及啓発を図りました。



水源かん養実験



学校裏山の散策



チェーンソー実演



丸太切り体験

【今後の予定】

管内市町の小中学校や市町との連携を図り、引き続き、「あいちの森林なるほど講座」を開催し、森林・林業への理解と木材利用推進を図っていきます。



僕は、いいともあいち
運動のシンボルマーク
の「あいまる」です。



私は、あいち森と緑のマ
スコットキャラクターの
「森ずきんちゃん」です。

- ① 県内の消費者と生産者が
今まで以上に いい友 関係になる。
- ② Eat more Aichi products.
(もっと愛知県産品を食べよう。)

食と緑の知多地域レポート2025
2025年9月

発行 愛知県知多農林水産事務所農政課
〒475-0903 半田市出口町1丁目36番地
電話 0569-21-8111(代表) 内線 231
電子メール chita-nourin@pref.aichi.lg.jp